

鹿野地域の学校のあり方について

はじめに

平成25年1月、鳥取市校区審議会において小規模校の統廃合や校区再編を含めた西地域の小中学校のあり方が発表されました。

鹿野地域においては、平成26年5月、地域住民団体や学校教育・保育関係者25名で構成する「鹿野地域の教育を考える会」を設立し、中学生以上の全住民を対象にしたアンケート調査を実施するとともに、その結果等を参考にしながら研究・議論を重ねてきました。

このたび、「地域を担う人材育成とそのための望ましい鹿野地域の学校のあり方(案)」をまとめました。

「鹿野地域の教育を考える会」取り組みの経過

期 日	内 容
H25年1月	第11期鳥取市校区審議会中間とりまとめ。併せて、検討資料「西地域の小中学校のあり方」「西地域の小中学校と施設整備のあり方」発表される。
H25年2月	鹿野町PTA連合会アンケート実施(こじか園、小中学校保護者対象)
H25年4～7月	地域説明会(3地区)、地域座談会(3地区合同)
H25年12～翌年2月	鹿野地域の教育を考える会発足準備会
H26年5月1日	鹿野地域の教育を考える会設立(25人)
H26年8～9月	町民アンケート実施(中学生以上の全住民対象)
～H27年6月現在	鹿野地域の教育を考える会の開催 (現在までに、全体での調査・検討会議8回 PT会議4回)

※注「PT会議」・・・中間とりまとめ等を行うために設置した内部検討組織。10人で構成。

地域を担う人材育成とそのための望ましい鹿野地域の学校のあり方(案)

I. 地域をめざす教育目標

ふるさとを誇り 世界で活躍する人づくり

小さな御朱印船で外洋に漕ぎ出す勇氣、地域の人を慈しみ地域資源を活し、ふるさとを磨き上げてきた智恵と気概等々。

これら先人の熱い思いを守り、未来に確実に伝えていきたいと願っています。

様々な人や地域との交流を通じて、一層輝くふるさと鹿野づくりを推進するため、地域を支えていく志や力を持ち、豊かな人間性を備えた人材を、地域全体で大切に育てていきます。

ふるさとを守り 地域をささえる人づくり

《めざす子ども像と育みたい力》

○自らの志を語るができる子ども

表現力

道徳力

自分から進んで学び、自分の考えや志を豊かに表現し行動する力を持つ。

○地域の一員として地域に関わることができる子ども

協働する力

つながる力

鹿野への誇りを持ち、地域と共に地域の文化・伝統を育てていく力を持つ。

【参考】 将来の学校の在り方に関するアンケート調査より（回収率 67.9% 回収数1,842/配布数2,712）

◆現在の鹿野の学校教育でよいと思われるもの◆	(複数回答)
1. 落ち着いて学習できる環境	49.8%
2. 地域と学校との関係が深い	40.7%
3. こじか園、小中学校間の交流	31.1%
4. 学習面でのきめ細やかな指導	27.2%
5. 地域の特性を生かした学習	26.9%
6. 生活面でのきめ細やかな指導	15.0%
7. 家庭的雰囲気や孤立しない	14.1%

◆現在の鹿野の学校教育で課題と思われるもの◆	(複数回答)
1. 部活動の選択肢が少ない	44.9%
2. 競争する機会が少ない	36.3%
3. 人間関係が固定化され序列がしやすい	34.7%
4. クラス替えがない	32.0%
4. 行事やグループ活動に支障がある	32.0%
6. 進学時に不安がある	15.6%
7. 学習面で多様な意見が出にくい	14.6%

◆鹿野の学校教育に期待するもの◆	
1. 学力向上	54.3%
2. 道徳教育等豊かな心の育成	52.1%
3. 体力向上	36.3%
4. 地域行事や地域活動への参加	30.7%
5. 地域住民とのふれあい	29.1%
6. 部活動	20.5%
7. 将来の職業進路指導	18.0%
8. ボランティア活動	15.4%

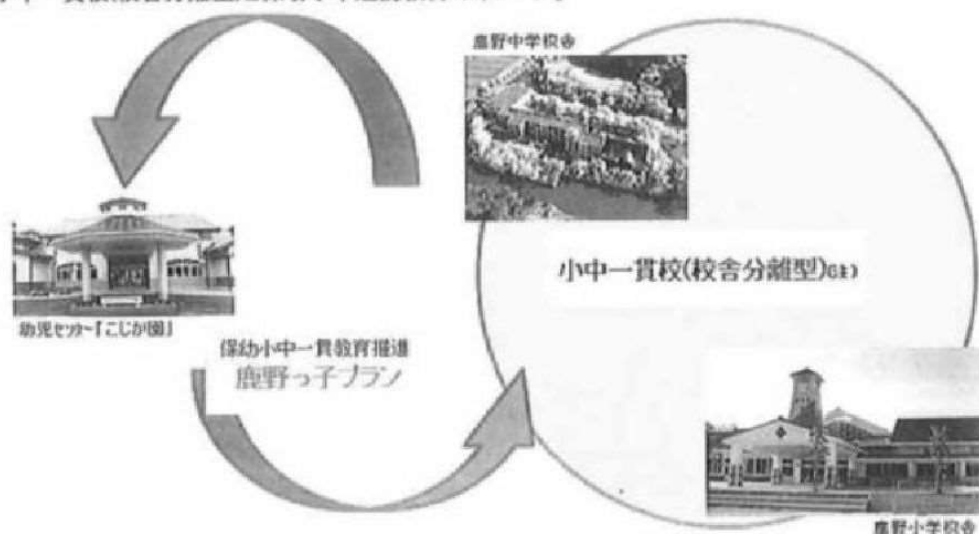
※以下、「入権教育」「情報教育」「読書指導」「地域の産業との連携」の順に続く

II. 望ましい学校の形態

鹿野地域では、一早く保幼連携施設を整備するとともに、鹿野っ子プランに基づき15年間を見通した保幼小中連携教育を大切にしてきました。

鹿野地域がめざす教育目標の実現に向けて、保幼連携施設こじか園、自然環境・歴史環境・地域との関わりを重視したエコスクールとして整備された鹿野小学校、歴史・自然環境に恵まれた鹿野中学校の教育環境を最大限活用しながら、保幼小中連携教育の一層の発展継続を図るため「小中一貫校(校舎分離型)」の設置が望ましいと考えます。

【小中一貫校(校舎分離型)と保幼小中連携教育のイメージ】



(注)小中一貫校には「校舎一体型」「校舎隣接型」「校舎分離型」があります。

《小中一貫校(校舎分離型)により期待される効果など》

- ★現在の教育環境(校舎、立地環境等)を引き続き活用できる。
- ★9年間を通じた独自のカリキュラムを組むなど、地域の教育目標に沿った取り組みを推進することができる。
 - 地域独自の教科「表鷺(あらわし)科^(注)」(仮称)等の導入
- ★小中教員が一体となって教育・運営にあたるため、教科担任制やTT授業^(注)等の小学校への導入が可能となる。
- ★様々な授業形態や学校行事を工夫して実施しやすくなり、「人間関係の固定化」等小規模に伴う課題に柔軟に対応できる。
 - ICTを活用した他校との連携授業などの実施^(注)
 - 小中合同授業や縦割り班活動など積極的な異学年交流の実施
 - 小中校舎や立地環境等、現在の教育環境を活用した多彩な行事の実施
- ★小学生は先輩の姿を見て学習や生活面を学ぶ機会を増やすことができる。
- ★中学生は児童と一緒に活動する機会を増やすことができ、上級生としての自覚が深まる。
- ★地域性豊かな特色と魅力ある学校として、児童・生徒数の増加が期待される。

(注)表鷺(あらわし)科: 表現力やコミュニケーション力などを養うため、川柳や演劇、英語などを総合的に学ぶ。また「2分の1成人式」や「表鷺の巣立ち式」を行うことで、将来の自己像の確立を図る。
 (注)TT授業: 2人以上の教員で行う授業。よりきめ細やかな指導が可能となる。
 (注)ICTの活用: インターネットやタブレット端末、電子黒板など、様々な情報通信技術・機器を用いた授業

※将来の鹿野中学校校舎の老朽度合等に応じて、小中一貫校(校舎一体型)への柔軟な移行も視野に入れます。

【参考】 将来の学校の在り方に関するアンケート調査より

◆将来の鹿野中学校はどうあるべきと思いますか◆	
1. 鹿野地域に残すべき	73.1%
2. 廃止して近隣の中学校に統合すべき	10.7%
3. わからない・無回答	16.1%

◆「1.鹿野地域に残すべき」を選ばれた方へ。現在のあなたのお考え◆	
1. 小中一貫校とする	56.5%
2. 現状のまま単独校とする	43.5%

Ⅲ. 地域のかかわり

鹿野地域では、地域ぐるみで子どもたちを大切に育んできた永い歴史と伝統があります。

新たに設置する小中一貫校(校舎分離型)は、保護者や地域住民が学校運営に積極的に参画する「コミュニティ・スクール」とし、「地域ぐるみ教育」「子どもたちと一緒に成長する地域づくり」を一層推進していきます。

○学校応援団を組織し、子どもと学校の健全な成長を支えます。

○地域の資源・人材を活用した授業を展開します。

○児童生徒の地域活動への参画をさらに促し、郷土愛を育てていきます。

【参考】 将来の学校の在り方に関するアンケート調査より

◆地域の中で学校はどのような存在ですか◆	
1. 地域になくてはならないもの	41.2%
2. 地域の人材育成の基礎	20.4%
3. 人と人のつながりの原点	16.5%
4. 昔からあたりまえにあるもの	10.2%
5. 特に意識したことがない	9.6%



＜＜音楽教室／鹿野小＞＞



＜＜ちまき作り／こじか園＞＞

◆地域は、鹿野の学校教育にどのように関わればよいですか◆	
1. できる範囲で関わればよい	55.7%
2. 積極的に関わるべき	25.0%
3. わからない	12.9%
4. 教育委員会や学校にまかせればよい	4.2%



＜＜昔笠づくり／鹿野中＞＞